

市制 20 周年記念



次の20年へ

～ 伝統・つながり・誇り ～



進修小学校

令和 6 年度 5年生の取組

わたしたちの通う進修小学校 わたしたちの住む進修校区

初めに、わたしたちが通う進修小学校を紹介します。進修小学校は、宇治浦田町にある小学校です。令和6年度12月現在、全校児童161人の学校です。人数はそれほど多くありませんが、明るく楽しい学校です。



5月には全校で校区の五十鈴公園に遠足に行きました。たてわり班の6年生が中心となって遊びを考えてくれました。



7月には平和集会がありました。戦争や平和について学習をし、分かったことや考えたことをたてわり班で交流しました。



10月には体育発表会がありました。ダンスやフラッグを発表しました。他にも、徒競走や学年別の種目をしました。

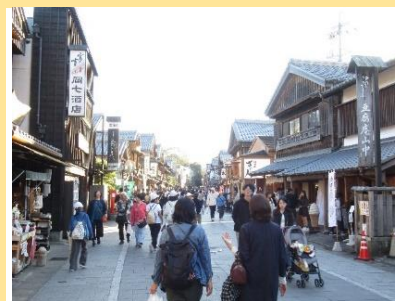
学校の周りには有名なものや、すてきなものがたくさんあります。まずは伊勢神宮内宮があります。他にも月讀宮、宇治神社、猿田彦神社など、たくさんの神社があります。伊勢神宮内宮の近くにはおはらい町やおかげ横丁があります。観光で来たことのある方もたくさんみえると思いますが、進修小学校の児童の中には、おはらい町に住んでいる人もいます。さらに遠足で行った五十鈴公園、三重交通Gスポーツの杜 伊勢（三重県営総合競技場）もあります。陸上の大会で来たことのある人も多いと思います。また、五十鈴川も流れています。夏になると、家族で遊びに行き、泳ぐこともあります。このように校区にはすてきなものや自まんでできるものがたくさんありますが、「おはらい町」、「宇治神社祭礼の会式」、「猿田彦神社の御田祭」の3つのことをこれからの20年に残していきたいものとして紹介します。



宇治神社



猿田彦神社



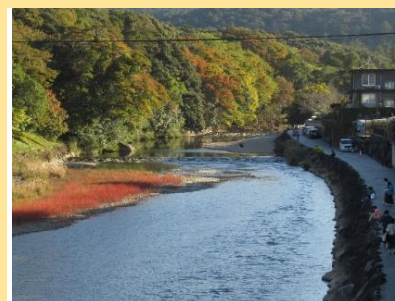
おはらい町



おかげ横丁



三重交通Gスポーツの杜
伊勢



五十鈴川

おはらい町

伊勢神宮内宮いせじんぐうないくうの前でさかえる「おはらい町」。宇治橋うじばしから五十鈴川いすずがわにそっておよそ800m続きます。いろいろなお店があり、たくさんの観光客でにぎわっています。令和5年には、約480万人も観光客が来たそうです。私たちも家族でおはらい町に行ったり、内宮にお参りに行ったりすることもあります。校区なので、おはらい町に住む友だちの家に行ったり、友だちとおはらい町を楽しんだりすることもあります。おはらい町に住んでいる家族は、約300世帯もあります。また、家庭科のお茶のいれ方を学習したときには、おはらい町のお茶屋さんに来ていただき、おいしいお茶のいれ方を教えてもらったこともあります。

おはらい町のことをもっと知ろうと思って、わたしたちはおはらい町でお店を営み、おはらい町の町づくりに関わる前田さんにお話を聞きました。お話を聞いて、わたしたちにとって身近で、生まれたときから当たり前のようにあるおはらい町ですが、たくさんの地域の方の思いがあることが分かりました。



おはらい町は昔から伊勢^{い せ}神宮^{じんぐう}の鳥居^{とり}前^{いまえ}町^{まち}としてお店などはたくさんありましたが、今のよ
うな風景になったのは、30年ほど前だそうです。電柱をなくしたり、道路を石^{いし}畳^{たたみ}にしたり
して、お伊勢さんらしい景観に整えました。同じころ、おかげ横丁も完成しました。みんな
がよく知る今のおはらい町の姿になりました。景観が整えられた後は、「人づくり」の活
動が始まりました。「人づくり」の活動のステップアップとして、もちつき大会や七夕祭り
なども行ったそうです。今は行われていない活動もありますが、おはらい町では今でもいろ
いろな行事や活動が行われていて、町づくりにこめた願いや思いは今でも受けつがれている
と思います。また、今では防災にも力を入れているそうです。

おはらい町には「人の力」を感じます。おはらい町でたくさんの行事が行われ、わたした
ちも参加しますが、おはらい町に住む方の活気やつながりを感じます。また、観光客をもて
なす心、おはらい町や伊勢の町を大切に思う心、誇^{ほこ}りに思う心もあります。みんなで協力
し、町をよくしていこうという思いをわたしたちも受けついでいきたいと思います。

伊勢おはらい町会議 まちづくり宣言^{せんげん}

- 一、私たちは、この町に暮^{ほこ}らすことを誇^{かんしゃ}りとし、感謝して生活します。
- 一、私たちは、おはらい町の伝統^{でんとう}的なたたずまいを、積極^{せっき}的に守ります。
- 一、私たちは、参^{さん}拝^{ばい}のお客^まさまを、真^ま心^{ごころ}込めてもてなします。
- 一、私たちは、子^し々^{しん}孫^{そん}々^{そん}まで喜^{よろこ}んで住まうことができる、生き生きとした町をつくります。
- 一、私たちは、このまちに集うすべての人の、安心と安全を考えたまちづくりを目指します。

宇治神社祭礼の会式

宇治神社は、宇治今在家町にある神社です。

「足神さん」とも呼ばれる神さまもまつられ、「足が速くなるように」とスポーツ選手がお参りされたり、足を痛めた方がお参りされたりすることも多いです。

毎年8月21日に、宇治神社の会式と呼ばれるお祭りがあります。お祭りの昼の部は「子ども川曳」があります。川曳を始める前に、練習した木遣りもひろうします。木遣りの練習は7月から始まります。地域の方が教えてくれました。木遣りのひろうが終わると、川曳が始まります。4年生から6年生の人たちがリーダーとなり、小さい子から6年生の人たちでそろいのハッピー姿でソリを曳きます。五十鈴川にソリを浮かべて、「エンヤ！」と言いながら川曳をします。

子ども川曳は、木遣りを教えてくれる人、安全に川曳ができるように先導してくれる人、事故やケガがないように見守ってくれる人、休けいの時に飲み物を配ってくれる人など地域の方や家族など、たくさんの大人の方に支えてもらっています。



わたしたちは木遣^{きや}りを教えてくれる山中さんに話を聞きました。もともとは20年に一度の式年遷宮^{しきねんせんぐう}や、5年に1回の初穂曳^{はつほびき}で川曳^{かわびき}をしていました。でも、数年に1回しかない行事だと、参加したくても参加できなかったり、技術が受けつがれていったりしません。そこで、毎年子どもたちも川曳^{かわびき}ができるようにしようという地域の方たちが思いを込めて、子ども川曳^{かわびき}を始めたそうです。山中さんも、昔、地域の方に木遣^{きや}りや川曳^{かわびき}を教えてもらったそうです。先人がしてくれたように、次は自分たちが次の世代に教えようという気持ちで今は指導してくれているそうです。そして、何より川曳^{かわびき}が好きだと言っていました。地域の先人たちも、材木を運ぶということを労働にするのではなく、お祭りとして楽しめるものにしてくれたそうです。

また、教育実習に来てくれた先生も小学生のころに会式^{えしき}に参加したそうです。教育実習の先生にも話を聞くと、会式^{えしき}のために、進学や就職で地元をはなれていた人たちが今でも集まってくるそうです。地域のつながりを感じるすてきな行事だと言っていました。

夜の部は、神社下の駐車場に屋台ができて、おまつり広場になります。焼きそばやかき氷などいろいろな屋台が並びます。この屋台はみんなのおうちの人や地域の人がやってくれています。

練習が何度かあったり、当日は暑かったり、大変なところもあったけど、とても楽しかったです。地区の人たちともたくさん関わることができました。いろいろな人がこの伝統ある行事を大切にしていることが伝わってきました。わたしたちもこの行事を大切にしていきたいと思いました。

猿田彦神社 御田祭

猿田彦神社は、物事を良い方へおみちびきになる神様をまつる神社です。猿田彦神社で行われている行事の1つに御田祭があります。御田祭は毎年5月5日に豊作豊漁を願って行われる古くから伝わる行事です。田楽の囃子にあわせて田植えをします。八乙女と呼ばれる小学校3年生女の子が、きれいな着物を着てその田植えを手伝います。私たちが3年生のころも八乙女として何人かが参加しました。昔から伝わる伝統的な行事に参加できたり、きれいな着物を着たりすることができて良かったです。お祝いとして、「お稚児行列」という、5～6歳の子どもが着物を着て、おはらい町などを歩く行事も行われます。女の子は赤い着物に金色の冠、男の子は青の着物に金色の烏帽子の姿で歩きます。小さかったのでくわしいことは覚えていませんが、とてもきんちょうしたことは覚えています。御田祭は、三重県の無形文化財にも指定されています。八乙女や稚児行列は私たちのお父さん、お母さんも子どもころに参加したと言っていました。稚児行列は、今は行われていないそうですが、私たちの子どもも参加できるぐらい、御田祭が続いてほしいと思います。



八乙女



稚児行列

(写真提供：猿田彦神社)